

ふれあいの詩基金事業報告

《令和7年度》

寄付額：202,939円

寄付件数：5件

心温まるご寄付を
ありがとうございました。
いただいたご寄付は
有効に活用させて
いただきました。



■ 実施事業（令和7年度）

ふれあいの詩基金助成事業

- ①障害者の社会参加を直接的に支援する事業
- ②ボランティア活動、障害への理解など、啓発を目的とした事業
- ③ボランティア活動振興の目的であり、かつ必要な資機材等の購入を目的とした事業
- ④その他、県社協会長が特に認める事業

令和7年度
助成実績

17団体 1,492,000円の助成

■ 助成決定団体からのコメント

ぽかぽか倶楽部 (新座市)



障がいのある人もない人もみんなと一緒に楽しい体験を目的に日帰りバス遠足を企画しました。助成のおかげで車いす利用者も参加できるリフト付き大型バスを借りることができ、医療的ケアが必要なお子さんも、参加してくれたボランティアの協力もあり、初めて遊園地の乗り物に乗ることができ大喜びでした。障がい児・者本人もご家族もそしてボランティアの方も貴重な体験ができたことみんな笑顔いっぱいの日となりました。

埼玉県網膜色素変性症協会 (略称：JRPS埼玉) (上尾市)



障害の有無などに関係なく、椅子に座ったまま体を動かせる「バリアフリーボックス」を年5回に分けて実施することが出来ました。見えない、見えにくい私たちのために、インストラクターが適度なスピードと適切な言葉でリードしてくださり、障害当事者だけでなく、家族、ガイドヘルパーなどの介助者も一緒に楽しく体を動かすことができました。ふれあいの詩基金助成金のご支援もあり、笑顔で、そして楽しくバリアフリーボックスを体験することが出来ました事に、感謝とお礼を申し上げます。

大宮おもちゃ図書館 「あ・そ・ぼ」 (さいたま市)



「障がいのある子どもたちに遊びの楽しさを」の願いから始まったおもちゃの図書館活動。現在はボランティア団体として活動を継続しています。

障害の有無を問わず親子が楽しめる場を目指し、地域団体に呼びかけ連携し開催した「ふれあいぱーく2025」は、400名超が参加する盛況となりました。参加者から「来年も開催してほしい」との声が寄せられ、スタッフも子供たちの笑顔に達成感を得られました。助成金を活用し、地域の絆を深める貴重な機会を実現できました。

ふれあいの詩基金は、読売新聞東京本社さいたま支局と埼玉県社会福祉協議会により昭和55年に創設された基金です。皆様からの寄付金を積み立て、障害者の社会参加を進めるボランティア活動の振興を図るために活用しています。

